

令和 7 年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	西の池学園		
開催日時	令和 7 年 10 月 4 日（土） 10：00～12：00		
開催場所	西の池学園 交流ホーム		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所	3	・管理者 ・支援員 2 名
	入居者	1	・自治会会長（欠席）
	入居者ご家族	1	・保護者会会長（欠席）
	地域関係者	1	・住民自治協議会
	福祉・経営に知見を有する方	1	・市内福祉施設理事長
	市町村担当者	1	・市障がい福祉課職員
議題	（１）挨拶 （２）自己紹介 （３）西の池学園 取り組み説明 施設内見学 （４）見学の感想 （５）意見交換 （６）その他		
議題 意見等	（１）挨拶 管理者より、本会議では、外部視点を定期的に導入し、運営の透明性を図ることを目的としている。地域移行支援や居住支援を充実し、障害者がある人らしく暮らせる環境を整えるために、施設見学や意見交換を通じて、利用者がその人らしく、安心して暮らせる環境づくりを目指したい。 （２）自己紹介 参加者各自の自己紹介が行われた。 （３）西の池学園の取り組みについて 管理者より、実際に施設内を見学しながら事業所の状況について説明を行った。内容については以下のとおり。 ①施設の概要、利用者の状況について ・定員 60 名の入所施設（現在 58 名利用）、短期入所定員 10 名 ・平均年齢 62～63 歳で高齢化が進行（70 代 23 名、80 代 8 名） ・障害支援区分 6（最重度）の利用者が 55 名 ・職員配置は 1.5 対 1 で最も手厚い体制 ・在籍 40 年以上の利用者が 17 名おり、長期入所者が多い。 ・今年度は 5 名が退所、5 名の新規受け入れを予定 ・高齢者施設への施設替えを希望する方もいる。 ・安定した食事を提供する為、クックチル調理システムの導入を検討中。衛生面で高い評価		

を得ている。

②職員の状況について

- ・介護福祉士 20 名、社会福祉士 15 名など資格保有率 35%以上
- ・看護師 2 名 栄養士 2 名 理学療法士 0.3
- ・20 代・30 代の若手職員が多い一方、他業種から就職された経験豊富な職員も在籍
- ・発達障害、強度行動障害、介護技術、人権擁護、ストレスマネジメント、リーダー育成研修、災害時の研修等も積極的に実施している。
- ・外部研修は職員の希望を聞いて優先し、年間一人一回は希望する研修へ参加している。
- ・今年度は発達障害研修への参加希望が増加、法人としても力を入れて取り組んでいる。
- ・職員の働き方改革についても進めており、男性の育児休暇も積極的に行っている。

③感染対策について

コロナ禍以降、感染対策への職員意識が高まっており、5 類移行後も施設の特性を踏まえ、流行期には対策を強化し、平時には緩和するメリハリのある対応を継続している。

④地域の関係性について

敬老会や小谷小学校との交流活動（アイマスク・車椅子体験等）を実施している。

⑤日中活動の様子について

スライドを用いて、年間行事、サークル活動、お出かけ、買い物、旅行、日中のスケジュールなどの内容について説明した。また、障害の特性に応じた活動や、個別ニーズに合わせた活動を少人数のグループで実施している点についても併せて紹介した。

（４）（５）見学の感想及び意見交換

感想：利用者さんが不穏になるときはどんな時か。

回答：不穏になる原因として、障害の特性に起因することがあることを説明した。これに対しては、特性に応じた構造化や視覚的支援を行い、対応している。

感想：利用者が高齢化している中で様々な支援の工夫がされていると感じた。発達支援についても工夫されており、職員の努力に対して凄いと感じた。利用者の地域移行についてはどのように考えているか、また意思決定支援についても教えて頂きたい。

回答：長期入所者も多く、本人に意向を尋ねても「ここが良い」と答える方や地域生活のイメージがつきにくい方もいる。また、意思表示の難しさもある。本人の意思をくみ取ることや、地域移行先の受け皿の現状も課題であるが、昨年から個別支援作成会議にて利用者の地域移行の意向を確認している。本人が参加し、絵やイラスト、写真などを用いて理解しやすい工夫をしながら、意思の確認を行っている。少しでも利用者の意向を反映できるように努めている。

感想：①さまざまな利用者がおられると感じた。障害者福祉サービスから介護サービスへの移行が制度上難しいと感じている。入居している利用者は西の池学園の生活が長いのか。

②自治会については、利用者が運営しているのか。

③飲酒や喫煙等について、希望があれば行えるのか。

回答：①長く利用されている方が多く、20年以上利用されている方も37名いる。多くの方が長期間入所されている状況である。

②利用者が主体となって運営しているが、難しい場面もあるため、職員がサポートしながら運営している。

③本人の健康状態や希望に配慮しながら、希望に添って行っている。

感想：清掃が行き届いていると感じた。感染対策についても意識が高く、継続されている点は素晴らしかった。入浴については、午前と午後に分けて入っているとのことですが、だれが入るか決まっているか。

回答：決まってはいるが、その時々によって変更になる場合や、本人の希望で変更することもある。

(6) その他

①地域の草刈りについて、西の池学園の職員がこれまで実施していたが、人手不足もあり、継続が難しくなっている状況である。今後の対応について相談させて頂きたいと思っている。

草刈りについては、応援隊の方（約20名程度）が地域の1人暮らしの方への援助を行っている。高齢であるが、相談したら草刈りを行ってくれるかもしれない。

②災害訓練について

地域の方が行っている炊き出し訓練に、西の池学園の職員も参加できるか検討したい。地域の方々との交流を深めることで、今後災害が発生した際に協力できる事が増えると考えている。顔の見える関係作りを進めていきたいと思う。

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	西の池学園グループホーム		
開催日時	令和7年10月4日（土） 13:00～15:30		
開催場所	総合活動センター食堂		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所	4	・管理者 ・サービス管理責任者 ・支援員2名
	入居者	1	・ホーム第2ひまわり
	入居者ご家族	1	・成年後見人
	地域関係者	1	・住民自治協議会
	福祉・経営に知見を有する方	1	・市内福祉施設理事長
	市町村担当者	1	・市障がい福祉課職員
議題	(1) 挨拶 (2) 自己紹介 (3) グループホーム取り組み説明 (4) ホーム見学の感想 (5) 意見交換 (6) その他		
議題 意見等	(1) ～ (2) 省略 (3) については 配布資料 (4) ホーム見学の感想 感想：ホームによっては2階に上がるのに階段が急に感じた。 回答：年齢や身体状況、健康状態、入居者間の関係性に応じて、適切なホームや居室の調整を行っている。特にグループホームの事務所に近いホームには、支援度や介助度の高い高齢の方々が生活している。 感想：食堂や廊下にカメラが設置されているホームがあるが、その使用目的は何か伺いたい。 回答：主な目的は外部からの侵入者による防犯である。その他、高齢入居者の転倒時の確認のために使用している。 感想：行事などの掲示や案内がきちんとされている点は良いと感じた。 回答：行事や企画については、事前に説明し、入居者の意向を確認した上で参加していただくようにしている。 感想：ホームによっては、目の前が車道のホームもあり危険だと感じた。 回答：車道に近いホームでは、主に就労されている方々が生活しており、横断歩道を渡って通勤している。一人で横断できることを確認し、安全に生活している。		

(5) 意見交換

各委員からの質疑応答・感想の内容

①職員間の情報共有について

委員1：利用者の悩みごとなど職員間でどのように引き継ぎ共有するのか伺いたい。

事務局：入居者の担当支援員だけでなく、他の支援員も気にかけるようにしている。昼間に支援ミーティングを行い、入居者ごとの情報を共有している。また、世話人、夜間支援員、生活支援員の勤務時間が重なる朝と夕に引き継ぎを行い、対応している。基本的には、ホームごとに設置された日誌に記入している。また、ケース記録でも確認できるようにしている。

②休日の過ごし方について

委員2：入居者は休日、何をして過ごしているのか伺いたい。

事務局：広島市内や西条方面へ公共交通機関を利用し外出されるケースが多い。具体的には、買い物やコンサート、映画などを楽しまれている。
また、一人での外出が難しい入居者については、グループホームの職員やヘルパーを利用して外出支援を行っている。

③業務内容について

委員3：夜間支援員の具体的な業務内容について知りたい。

事務局：7ホームを巡回し、利用者全員の安否確認、夏や冬にはエアコンの温度管理等を行っている。

④他事業所との連携の仕方について

委員4：生活の場であるグループホームと通所先が離れている事業所との連携について、ZOOM会議を活用しているとのことで、よい取り組みだと思った。

事務局：同じ法人内のサービスを利用している場合でも、支援方法の連携が十分に取れていない状況があった。今回紹介した支援事例は、サービス管理責任者同士が共通認識を持ち、生活支援員等に適切に説明できるようにしている。

⑤防犯対策について

委員3：夜間の各ホームの施錠状況について教えていただきたい。

事務局：22時に夜間支援員が巡視し、その後ホームの玄関の戸締りをしている。夜間警備会社とは、火災報知機の鳴動時に緊急連絡先へ連絡が入る仕組みになっている。
また、室内で入居者が倒れた場合などの緊急時には、緊急ボタンを押すことで警備会社が駆け付ける対応を取っている。

⑥利用者の生活上のリスクについて

委員 3 : 入居者が所在不明になった場合や、外出中に怪我をされた時の対応方法を知りたい。

事務局 : 各入居者は、各自鍵を持っており、自分で行動ができる方には外出・帰宅時間を伝えてもらっている。

外出中の緊急時には、事前に入居者と連絡方法を確認している。

⑦BCP の取り組み及び第三者評価受審結果について

事務局 : 第三者評価の結果を踏まえ、災害時に向けた地域との訓練等の取り組みについて助言を受けた。これに関して、地域住民の方と具体的に何ができるかについて意見を伺いたい。

意見 : 地域と協力した訓練も重要だが、まずはグループホームの入居者一人ひとりが取り組める事をまず考えた方が良いのではないかと。

災害時は何よりも自分の命を守ることが最優先になるので、地域住民とどのような目的で、どの部分で協力や連携が必要なのかを明確にし、地域との協力が必要と漠然と考えるのではなく、具体的な取り組みを検討する必要がある。

⑧就労状況について

委員 1 : 雇用形態について伺いたい。

事務局 : 障がい者雇用の形態で、企業にて就労している。

⑨ヒヤリハットについて

事務局 : 委員会でヒヤリハットの課題を検討し、未然防止の視点で積極的な報告と改善に取り組むため、9 月より法人全体でも取り組みを強化している。直近 9 月には 13 件の報告があり、そのうち 11 件は情報の確認、共有、連携が適切に行われていれば防止できた内容であった。怪我につながるケースとしては、転倒とホーム敷地内での所在不明の 2 件が挙げられる。これらの事例を踏まえ、入居者への支援方法の見直しや必要なアセスメントを実施し、改善策を検討していきたいと考えている。